

【第212回国会（臨時会）】

1 議長の選挙

令和5年10月19日、議長細田博之君が辞任願を副議長海江田万里君に提出し、翌20日の本会議において、議長の辞任が許可された。次いで議長の選挙を行った結果、額賀福志郎君が議長に当選した。

2 国務大臣の演説及び質疑

令和5年10月23日に岸田内閣総理大臣の所信表明演説が衆議院本会議において行われ、これに対して、同月24日及び25日に各会派の代表質問が行われた。

(1) 岸田内閣総理大臣の所信表明演説

【1 はじめに ～変化の流れを掴み取る～】

第212回臨時国会の開会にあたり、所信の一端を申述べます。

日本国内閣総理大臣として、私の頭に今あるもの、それは、変化の流れを絶対に逃さない、掴み取る、この一点です。

岸田内閣は、防衛力の抜本的強化、エネルギー政策の転換、次元の異なるこども・子育て政策をはじめ、時代の変化に応じた先送りできない課題に一つ一つ挑戦し、結果をお示ししてきました。今後も、物価高をはじめ国民が直面する課題に、先送りせず、必ず答えを出すとの不撓不屈の覚悟をもって取り組んでいきます。

最初に掴まなければならない変化の流れは経済です。30年来続いてきたコストカット経済からの変化が起こりつつあります。この変化の流れを掴み取るために、持続的で構造的な賃上げを実現するとともに、官民連携による投資を積極化させていく。経済、経済、経済。私は、何よりも経済に重点を置いてまいります。

変化の流れは、社会にも起きています。人口減少、とりわけ生産年齢人口の減少が進む一方で、デジタル化等によって、それを補って余りある生産性の向上を図る余地が増えています。この変化をチャンスに変えていくためにも、少子化対策とあわせてデジ

タル化を徹底的に進めます。

そして、変化の流れは、外交、安全保障にも起きています。ベルリンの壁崩壊以降進んだグローバル化は、平和と繁栄の基盤となりました。しかし、世界は分断と協調が複雑に絡み合う新たな時代に入っており、国際社会においてこれまで以上に結束が求められています。日本は、国際情勢を踏まえ、柔軟に対応



岸田内閣総理大臣の所信表明演説（第212回国会）